

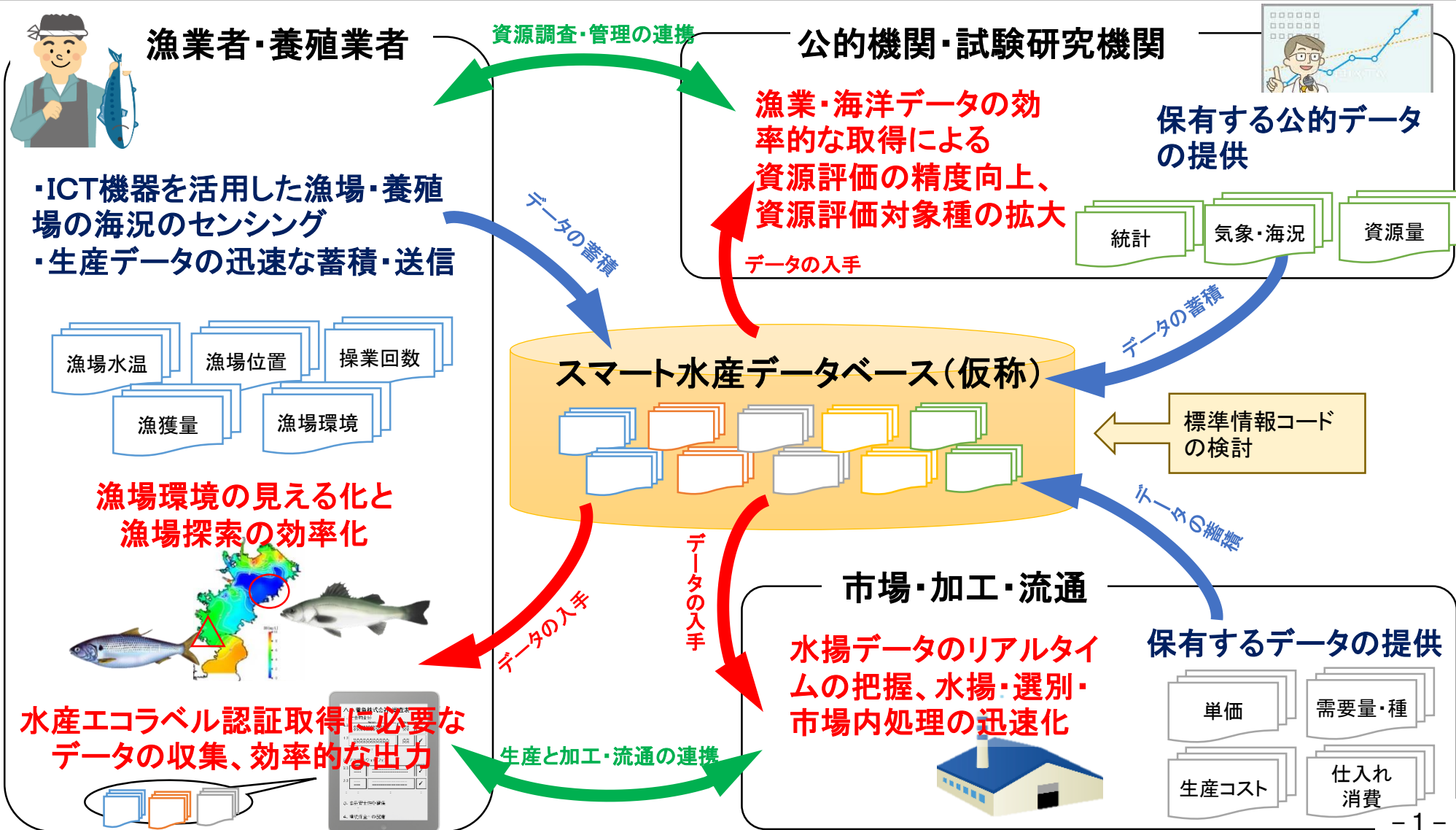
スマート水産業の実現に向けた 取組方針について

平成30年3月

水産庁

データをフル活用したスマート水産業の取組

○ 集約的なデータプラットフォームを構築し、水産業に関わる幅広いデータの取得・共有・活用を促進することで、充実した資源評価・資源管理や、関係者の連携によるバリューチェーン全体の生産性向上を実現



漁業・養殖現場における取組

- 漁業・養殖現場の生産・取引活動をデジタル化するために、ICT・IoT・タブレットPC・漁獲成績電子報告システムといった技術・ハード・ソフトを積極的に導入する。取得したデータを関係者で共有・分析し、資源管理、効率的な生産活動の実現につなげる。

漁業・養殖現場における取組



スマホを使って
操業しながら漁
業・魚探・海洋
データをリアル
タイムに収集



漁協、水産市場
における水揚情
報・取引情報の
電子化の促進



養殖魚の入込数やサ
イズ等を自動計測、
最適な成長を促す自
動給餌システム、台風
等から避難する自動
制御システムを構築



漁船、漁協、水産市
場等から漁獲量等デ
ータを一元的に集約
するシステムの構築



漁獲した魚の量や種類等を迅速にデー
タ化し、船上から正確な漁獲データを陸
側に提供 ⇒ IQの管理等に活用
漁船のソナー等のデータ、航海・機関等
のデータを陸上で収集・管理

効果・狙い

- 資源調査の充実によるTAC対象魚種の追加、数量管理の拡大
- ICTを活用した定量・分散出荷による効率的な養殖マネジメントの実施
- 漁場形成予測による操業コストの低減
- 我が国周辺水産資源の増大
- 漁業者の所得向上
- データを活用した経営感覚をもった担い手の育成

目標：2020年までに漁業・養殖現場の生産活動をデジタル化するとともに、取得したデータを関係者間で共有・活用するデータプラットフォーム(スマート水産データベース(仮称))を構築・稼働する

加工・流通における取組

- 生産・加工・流通の関係者が連携し、バリューチェーン全体で、情報通信技術や先端技術を活用し、低コスト化・高付加価値化等を図る取組を促進

加工・流通分野の取組

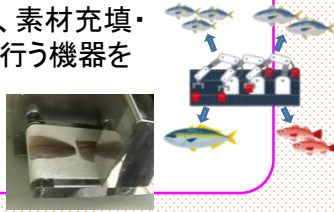
産地市場の情報活用

電子化された情報の標準コード化を進めるとともに、買参人の拡大や新たな取引形態を導入



加工場の省力化と高付加価値化

魚種選別、カット・骨抜き、素材充填・パッキング等を自動的に行う機器を開発・導入し、人手不足等に対応



物流チャネルの効率化

最新の冷凍技術により鮮度を保持するとともに、情報を集中管理しトラック等で共同運送するなど、効率的に商品を集荷・分配

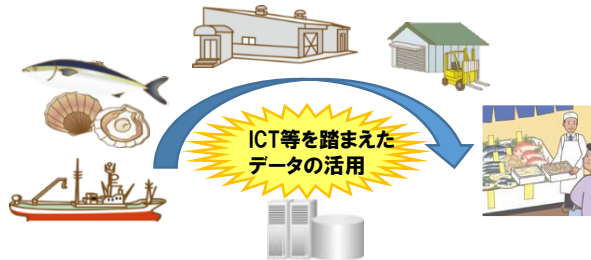


生産・加工・流通を通じた連携モデルの構築


生産・加工・流通がICT等を活用しながら連携し、バリューチェーンを通じたコスト低減や高付加価値化に取り組むことにより、国際競争力を強化

例1: 資源管理の強化と連動し、より多くの市場関係者が参加し、水産物が適切に評価される体制の構築

例2: 国内外の需要を見据えた養殖水産物の計画的生産と、付加価値を高めるための加工・流通業の連携体制の整備



効果・狙い

- 水産物の価値を反映した適切な価格の形成
 - ニーズに対応した商品開発と効率的な生産
 - 輸送段階での効率的な配送と鮮度維持
 - エコラベルやトレーサビリティの基盤構築
- 
- バリューチェーン全体の生産性向上
 - 良質な水産物の消費者等への安定供給
 - 海外市場を含む販路拡大

目標: 2020年までに、生産・加工・流通を通じた複数の連携プロジェクトの構築や、電子取引の標準コード推進等に着手するとともに、事業成果の横展開に向けた関係者間の協力枠組を構築

スマート水産業の実現に向けて

ICT、IoT、ビッグデータ解析、AI等を活用し、漁業者、養殖業者、加工業者、流通業者がデータを共用



- ✓ 新しい技術を実装し、データに基づく効率的・先進的な水産業に転換！
- ✓ 漁業の実態を見える化し、国民に理解される水産施策の展開！
- ✓ バリューチェーンの構築により水産業の成長産業化！

平成30年夏を目途に改革案の骨格をとりまとめる

